

東中川地域まちづくり協議会防災計画

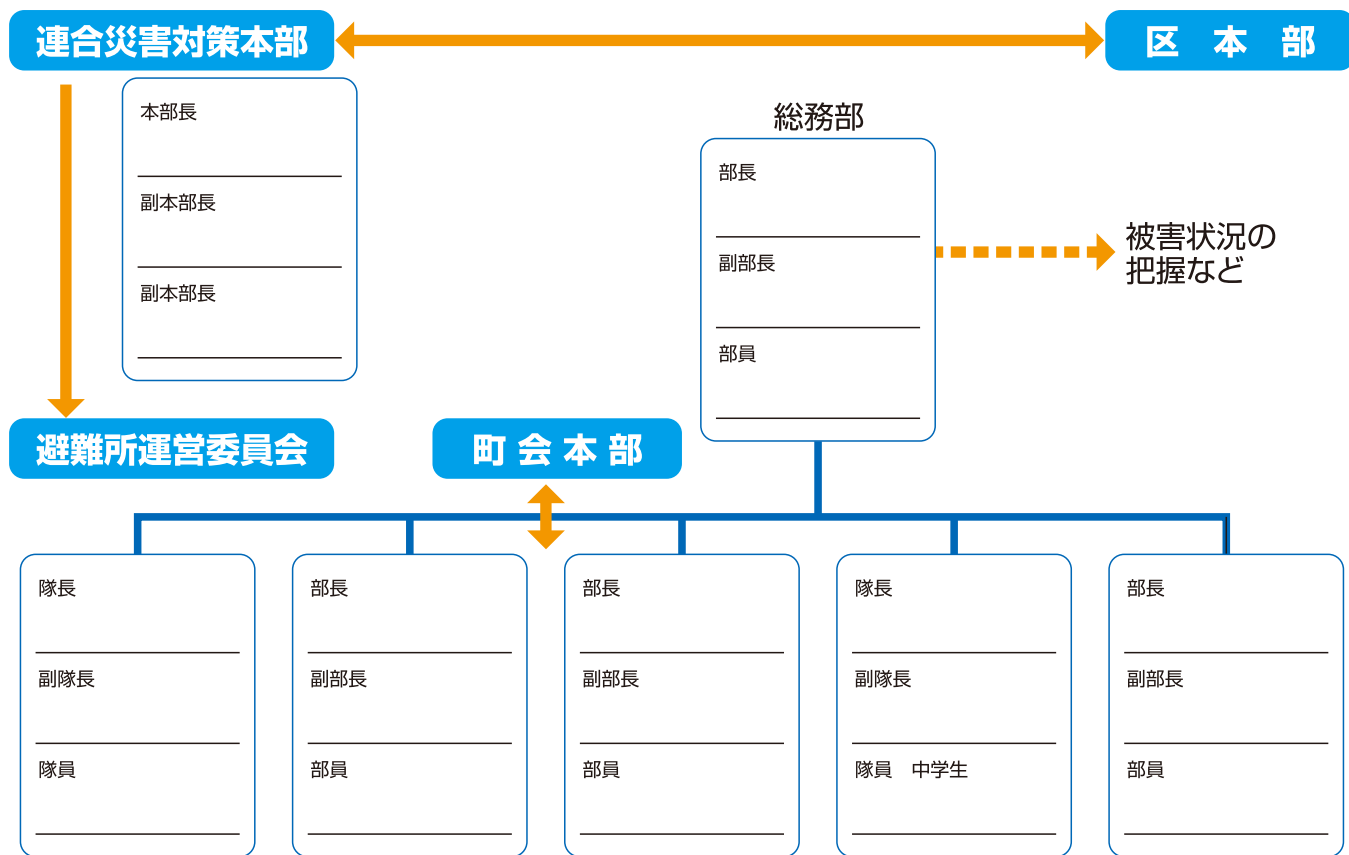
●地域災害対策本部など設置基準

- 生野区で「震度6以上」を観測した場合、東中川小学校に「東中川地域災害対策本部」を設置する。
- 生野区で「震度5以上」を観測した場合、各町会において「安全確認」など警戒体制をとることとする。

●防災活動計画

平 常 時	災 害 時	復旧・復興期
○定期的な防災訓練や避難訓練、避難活動、連絡体制の整備 ○避難経路の確認 ○指定避難所や一時避難場所の確認 ○避難行動要支援者の把握 ○それぞれの家庭における非常食又は備蓄食糧など ○救助、救出など技術の取得 ○防災教育など普及啓発活動の実施	○身の安全の確保（自助） ○出火防止、初期消火活動の徹底 ○住民同士の助け合い（共助） ○率先避難、避難誘導、災害時避難行動要支援者への支援 ○情報収集、共有、伝達 ○物資の仕分けや炊出し活動 ○避難所の運営 ○在宅避難者の支援	○被災者に対する地域コミュニティ全体での支援活動 ○行政関係者、学識経験者などか連携し、地域の理解と協力を得て速やかな復旧、復興に向けて活動を促進する

東中川連合災害対策本部組織図



災害時避難所

- 災害時避難場所 東中川小学校 (災害対策本部)
 - 新今里3北町会 新今里7南町会
 - 新今里3西町会 中川東1町会
 - 新今里3南町会 中川東2町会
- 東生野中学校
 - 新今里1北町会 新今里4南町会
 - 新今里1南町会 新今里5北町会
 - 新今里2町会 新今里5南町会
 - 新今里4北町会 新今里6町会
- 天理教 葛上分教会 要支援者
 - ※夜間中は小路地区

東中川全域マップ



電話が使えないとき...

大規模な災害時には、一般電話や携帯電話の通話が制限されます。NTTの災害用伝言ダイヤルを活用して、家族や友人の安否確認を行いましょう。

災害用伝言ダイヤル 171

このサービスは毎月1日、防災週間(8月30～9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日～21日)に体験利用できますので、安否情報を登録してみましょう。(通話料が必要です)

大阪市救急安心センター

病気やケガ 困ったら ますここへ

☎ #7119 または 6582-7119

24時間 365日 通話料 体制 有料



HIGASHINAKAGAWA
保存版
2015

新今里7北

東中川地域まちづくり協議会 防災マップ





非常準備品(チェックシート)

●飲料	●生活用品
☐ 飲料水(20ボトル)	☐ タオル
☐ 非常用給水袋	☐ バスタオル
	☐ 毛布
●食糧	☐ 雨具
☐ アルファ米	☐ 予備電池
☐ 乾パン	☐ 卓上コンロ
☐ ラーメン	☐ ガスボンベ
☐ 缶詰類	☐ 鍋、やかん
☐ レトルト食品	☐ ラップ
☐ スープ	☐ アルミホイル
☐ 味噌汁	☐ 皿、コップ、割りばし
☐ ビスケット	☐ スプーン、フォーク
☐ キャンディ	☐ 歯ブラシ、石鹸
☐ チョコレート	☐ ドライシャンプー
☐ 塩	☐ 携帯電話の充電器
●衣料	☐ 新聞紙、安全ピン
☐ 上着	☐ 使い捨てカイロ
☐ 下着	●その他
☐ 靴下	☐ ブルーシート
	☐ 養生テープ

どうする？風水害

- 風が強いとき**
- ① 路上にいるとき
強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。
- ② 屋内にいるとき
風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。風が強いうちは窓に近づかないようにしましょう。
- 大雨のとき**
- ① 車を運転しているとき
すでに浸水している道路に差しかけたら水の流れを横切る方向へ移動し、高台へ避難しましょう。
- ② 路上にいるとき
浸水してきたら、しっかりした建物の3階以上へ階段を使って避難しましょう。
- 避難をするとき**
- ① 動きやすく安全な格好で避難
ヘルメット等で頭を保護し、すべりにくい靴を履きましょう。裸足や長靴は危険です。荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。
- ② 深さに注意
歩行可能な浸水は、男性で70cm、女性で50cmが目安です。無理をせず高い所で救援を待ちましょう。
- ③ 足元に注意
水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながらあるきましょう。



六丁目北町会防災マップ

減災について



災害を防ぐことを防災と言いますが、防波堤や防潮堤を整備し高い所に避難所を造っても、地震や集中豪雨そのものを防ぐことはできません。自分たちで災害に備えておくこと「防ぐことのできない災害からの被害を少しでも減らす」それを減災と言います。

最初は自助（自分の力で助かる）

- 1 怪我をしない
時間帯にもよりますが、多くの人が家の中で怪我をします。倒れた家具の下敷きや、棚から落ちてきた物で頭を打ったりします。
- ① 高い所の物は落下しないように工夫しましょう
② キャスター付の重たい物は動かないように工夫をしましょう
③ 家具や冷蔵庫等は倒れないように固定しておきましょう

ガラスが割れて飛び散ったりします。

- ④ ガラスの扉などは飛散防止のフィルムやシートを貼っておきましょう
⑤ 食器類が飛び出さないように工夫をしておきましょう
⑥ 足を切らずに家の中を歩けるように上履きを用意しておきましょう

- 2 火を出さない
火の出る原因はガスコンロやストーブだけではありません。電気のショートによる火花等もあります、もし火が出たら揺れが収まってから対応しましょう。
- ⑦ ご家庭でも消火器を用意しておきましょう
⑧ 火事の3原則 大声で知らせる（隣近所に応援を求める）
3分～5分以内で火を消す（手近なもの利用する）
ダメだと思ったら迷わず逃げる（ドアや窓は閉めて逃げる）

次に協助（隣近所で協力して助かる）

- 3 家族の無事が確認できたら
⑨ 近所の様子に気を配り、人手がいるなら助け合う
- 4 近所が落ち着いたら
⑩ 町会の一時避難場所は中学校北門です、町会役員はそこで対策に当たります。お手伝いをお願いします、役員だけでは足りません、少しでも速く多くのことに対応しなければなりません。ご協力をお願いします。

- 5 避難所の開設
むやみに避難所を混乱させない。町会役員は最初にみなさんの安否確認をします。

- ⑪ 我先に避難所へ急がない。自宅で待機できる人は家に居てください。
⑫ 家が壊れたりして避難を余儀なくされた場合は、ガスの元栓は閉め電気のブレーカーは落として来てください。

*以上は自分たちで備えができる一例です。

最後に公助（行政の助けが来ます）

